



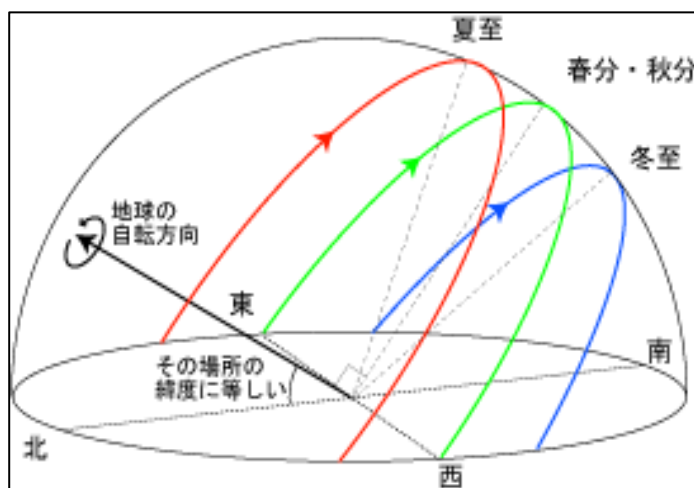
げし 夏至の話

夏至とは皆さんご存知の通り北半球では1年で最も昼の時間が長い日です。

この夏至は、太陽が春分点から90°はなれた位置にきた瞬間を夏至とよび、夏至になる日を「夏至日」といいます。今年は日本時間6月21日の18時14分が夏至となりますので、この6月21日が夏至日となります。

さてこの夏至の日、1年で日の出が一番早く、日の入りが一番遅いのかということそうではありません。

東京での6月21日の日の入りの時刻は19:00ですが、6月24日から7月5日まで19:01と夏至日を過ぎてから遅くなります。でも、日の出の時刻6月21日は4:25ですが翌22日からどんどん遅くなってゆきます。それで6月21日が昼の時間が一番長いわけです。またこの日、昼の時間が長いとともに太陽の高さも一年で一番高くなります。



太陽の動き(国立天文台提供)

北欧では日が高い夏至は大切な行事のようですが、日本では夏至の頃は梅雨の長雨の季節のためか地味な気がします。冬至にはカボチャを食べるといった風習が有名ですが、夏至の風習というのは馴染みが薄いですね。でも農業ではこの時期、夏至から半夏生(7月2日頃)までが田植えを行う目安となる大切な時期です。田植えという大切な作業がこの時期にはあるので日本ではお祭りどころではなかったのかもしれませんが。

行事といえば、一年の半分以上が過ぎたこの時期、神社では茅で作った大きな「茅の輪」という輪をくぐって穢れをはらう「夏越の祓え」という行事が行われているところがあります。

(解説員: 足田 純之)